令和7年度　京丹後市文化財保存活用地域計画進捗管理表

資料

(1)包括的な措置　実施調書

基本方針１－１．「計画的に調査・研究を進め、成果を共有する」に基づく措置

課題	番号		事業名	事業内容	主体 主管課	主体 大学	主体 団体	主体 市民	期間 前期（3年）	期間 後期（2年）	期間 次期計画	財源	根拠	備考
未把握の文化財に関する調査の推進	1	継続	文化財に関する計画的な把握調査の実施	山林寺院や祭りや行事、堂・祠等調査が充分進んでいない類型の文化財に対する調査を、大学等研究機関や市民、活動団体と協働して進める。（個別の文化財に関する調査事業については関連文化財群の措置として記載）	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	外部資金(大学研究費)、国庫補助金、市費		
調査成果が活用しやすい環境づくり	2	新規	調査成果の保存・管理等の推進	これまでの調査結果の保存・管理を進めるため、調査成果の整理、デジタル化などを進める。具体的には、絵画・彫刻・工芸品・古文書等に関して、３Ｄスキャンや写真撮影によるデジタル化を推進する。	文化財保存活用課	●					○	国庫補助金、市費		

基本方針１－１．進捗管理

実施年度 R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
○	○	○			山林寺院等の調査を府立大学や地元団体（丹後ひくやま会）とともに実施中。	京都府立大学・丹後ひくやま会と連携し、久美浜町山内や佐野甲等の山寺調査を実施した。	普通	維持
						京都ミュージアム連携デジタルアーカイブ事業により震災復興建築や断層の３D化、震災資料のデジタル化を進めた。	高い	維持

基本方針１－２．「保護の対象を広げ、適切な管理のための環境を整える」に基づく措置

課題	番号		事業名	事業内容	主体 主管課	主体 大学	主体 団体	主体 市民	期間 前期（3年）	期間 後期（2年）	期間 次期計画	財源	根拠	備考
文化財保護法や条例に基づく着実な文化財の保護	3	継続	文化財指定等の推進	未指定文化財のうち重要なものについて、文化財保護法や条例に基づく新規文化財指定に向けた取り組みを推進する。	文化財保存活用課			●	○	○	○	市費	京丹後市文化財保護条例	
	4	新規	「（仮称）京丹後市登録文化財制度」の創設の検討	市民の身近な文化財を市登録文化財として認定することにより、保存・活用を進めるための新しい制度の創設を検討する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費	京丹後市文化財保護条例	
	5	継続	京都府文化財保護指導委員による巡視	文化財の保存・管理、普及啓発のため京都府文化財保護指導委員による巡視の支援を行う。	文化財保存活用課				○	○	○	府費	京都府文化財保護条例	
文化財の保存に係る財源の確保	6	新規	「（仮称）京丹後市文化財保護基金」の設立の検討	安定的に文化財の保存に関する財源を確保するため、ふるさと応援基金等を活用し、基金の設立を検討する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費、寄付金等		
					ふるさと応援推進課				○	○	○	市費、寄付金等		
指定等文化財の適切な修理・保全	7	継続	京丹後市指定文化財等補助金	貴重な文化財を後世に残すために、所有者が行う指定文化財等の修理や保全に係る事業に対して補助金を交付する。	文化財保存活用課			●	○	○	○	市費	京丹後市指定文化財等補助金交付要綱	
適切な保存・管理のための資料内容の整理、 市内資料館の機能の充実	8	継続	収蔵品目録の整備と収蔵施設の集約	資料館等の収蔵品目録の整備を行うとともに、分散収蔵となっている資料館に収蔵しきれない資料（民俗資料、考古資料、古文書）の集約をはかる。また、各区での保管が難しくなった資料を将来的に収集・収蔵することを想定し、収蔵施設の確保・拡張を検討する。	文化財保存活用課				●	○	○	○	国庫補助金、市費		

基本方針１－２．進捗管理

実施年度 R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
○	○	○	○	○	新規文化財指定に向けた検討を、文化財保護審議会に諮りながら進める。令和7年度の文化財保護審議会は、12月、2月頃の計2回開催する。1回目で候補物件を諮問予定。	１回目の委員会で候補物件を諮問し、２回目の審議会で新指定文化財を３件答申した。答申された３件ともに市文化財に指定した。	普通	維持
○	○	○	○	○	R6年度で検討終了。（京丹後市では市民遺産制度が発足しているため、市民縁線制度で目的を達成していく）		低い	完了
○	○	○	○	○	京都府文化財保護指導委員による巡視について、府との連絡調整や助言等の支援を行う。	京都府文化財保護指導委員による巡視について、府との連絡調整や委員への助言など支援を行った。	普通	維持
○	—	—	—	—	R5年設立		高い	完了
○	—	—	—	—	R5年設立		高い	完了
○	○	○	○	○	京丹後市指定文化財等補助金を運用する。	京丹後市指定文化財等補助金を運用し、文化財所有者18者に対し補助金を交付	普通	維持
○	○	○	○	○	資料館その他の収蔵資料について、台帳（目録）作成を進めるとともに、再整理及び集約を図る。	引き続き、丹後古代の里資料館の簡易台帳の作成を進めた。	普通	維持

基本方針１－３．「魅力を発信し、多様な分野と連携して活用する」に基づく措置

課題	番号		事業名	事業内容	主体 主管課	主体 大学	主体 団体	主体 市民	期間 前期（3年）	期間 後期（2年）	期間 次期計画	財源	根拠	備考
多様な媒体を活用した情報発信	9	継続	広報、ケーブルテレビでの文化財の紹介	市広報、京丹後市ケーブルテレビを活用し、京丹後市文化財保存活用地域計画に示した京丹後市の歴史文化の特徴を紹介する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費		
					秘書広報広聴課				○	○	○	市費		
					デジタル戦略課				○	○	○	市費		
	10	継続	特別展示や企画展示の開催	市内の資料館で市の歴史文化を紹介する特別展示や企画展示を開催し、市民や市外の人々への普及啓発を図る。	文化財保存活用課				○	○	○	市費		
	11	新規	「京丹後市歴史文化物語」の発信	京丹後市文化財保存活用地域計画に示した京丹後市の歴史文化の特徴を紹介するパンフレット（一般向け）を作成し、あわせて市HP等で紹介する。	文化財保存活用課			●	○	○	○	国庫補助金、市費		
	12	継続	文化財に関する情報や調査成果の発信	市民や市外からの来訪者に対して、文化財に関する情報や調査成果の発信を行うため、京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境のほか、図書館・図書室で書籍や資料など紙媒体の活用を進める。	文化財保存活用課				○	○	○	国庫補助金、市費		
					生涯学習課				○	○	○	国庫補助金、市費		
	13	新規	文化財活用実践セミナーの開催	市民が文化財の活用に取り組みたいと思うきっかけとなるような実践的なセミナーを定期的に開催する。	文化財保存活用課		●				○	国庫補助金、市費		
文化財の観光活用に向けた整備の推進	14	新規	文化財に関連するエコツーリズムの推進	多様な主体が連携して、「フードツーリズム」、「ジオツーリズム」、「産業ツーリズム」、「伝統・伝承ツーリズム」、「ヘルスツーリズム」、「史跡ツーリズム」を推進する。	健康推進課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費		
					観光振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費		
					生涯学習課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費		
					商工振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金		

基本方針１－３．進捗管理

実施年度 R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
○	○	○	○	○	各種文化財セミナーやイベントなどの広報京丹後への掲載、市HP、Facebook、LINE、京丹後歴史文化めぐりマップへの掲載及び適時ケーブルテレビや報道各社に情報提供を行う。	広報京丹後に文化財保存活用課が実施するイベントの案内や報告などの記事を10回掲載。また、文化財セミナー及び丹後古代の里資料館企画展示の展示解説をケーブルテレビ取材・放送。	高い	維持
○	○	○	○	○	文化財保存活用課と協議の上、広報京丹後に関連記事を掲載する	広報京丹後に文化財保存活用課が実施するイベントの案内や報告などの記事を10回掲載。	普通	維持
○	○	○	○	○	コミュニティチャンネルで番組制作・放送を行う（週間ニュース、特番等）	網野銚子山古墳史跡整備完了記念イベント、野外コウノトリ足環装着作業、市民遺産認定証交付式、須田平野古墳発掘調査体験や、日本で稀な木造格納庫を未来へつなぐ講演会などを取材・放送した。	普通	維持
○	○	○	○	○	市立丹後古代の里資料館及び郷土資料館において、企画展示や各種イベントを開催し、普及啓発を進める。 企画展：丹後古代の里資料館　３回 郷土資料館　２回 イベント：両館ともに夏休みイベント、資料館まつり各１回	各資料館で次のとおり開催した。 ▶郷土資料館 企画展示３回（夏・秋・冬）、資料館まつり１回 ▶丹後古代の里資料館 企画展示２回（夏・冬）、資料館まつり１回、市内小中学生夏休み入館無料イベント	高い	維持
○	○	○	○	○	R5年に一般向けパンフレット作成済み。		普通	完了
○	○	○	○	○	「京丹後市歴史文化めぐりマップ」を活用し、歴史文化に関する情報を市内外に向けて発信する。	「京丹後歴史文化めぐりマップ」の活用 資料館企画展示やイベント情報などを掲載	普通	維持
○	○	○	○	○	図書館内における市内の文化財等に関する特集展示の実施	峰山図書館において、「京丹後市の文化財」のテーマ展示を２～３月におこなった。	普通	維持
○	○	○	○	○	大学との共同研究（府大ACTR等）や資料館の企画展示に関連し、京丹後市文化財セミナーを開催する。	文化財セミナー　第１回（ACTR報告会）2/28開催	普通	維持
○	○	○	○	○	①ジオサイトを活用したトレイルツアーを造成し、京丹後市観光公社で販売する。 ②長寿のまちという特色をいかした京丹後ヘルスツーリズムを造成し、京丹後市観光公社で販売する。	ジオサイトを活用したトレイルツアーを実施。実施回数４回、参加人数１２１人	普通	維持
○	○	○	○	○	ジオパーク等自然の中で各種スポーツ大会を実施。	ノルディックウォーキングの取り組みの中で、峰山飛行場の故地をめぐるウオーキングを実施、42名参加。	高い	維持
○	○	○	○	○	地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする「地域一体型オープンファクトリー」を実施。	地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする「地域一体型オープンファクトリー」を実施。 ◆通年型オープンファクトリー 万博開催と同日の4月13日からスタートし、ものづくりに興味のある方やクリエイター、デザイナー、商工団体等に対し市内オープンファクトリー実施事業者の情報発信や受入調整、リクエストに応じてツアーを実施 ◆丹後オープンファクトリー2025「NeoTAN」 10月3日～5日に開催。 28のものづくり現場を一斉に開き、職人や技術者との直接対話や体験を通じて、地域の"ものづくり力"を開近に感じられるイベントを京丹後市と与謝野町で開催。	普通	拡充

					長寿福祉課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費											
					農業振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費			○	—	—	—	—	令和５年度で事業完了し、令和７年度は取組なし		普通	完了
					海業水産課	●	●	●	○	○	○	市費	海業推進事業計画、京丹後市漁業振興対策事業補助金交付要綱	海業振興事業補助金、地域水産物販路拡大支援事業補助金	○	○	○	○	○	浅茂川漁港を中心とした遊漁の拠点づくりの取組を支援。	シロイカフェスティバル2025in網野を開催した。 事業概要 日時：2025/7/20(日) 場所：浅茂川漁港 来場者数：約2,500人	普通	維持
					文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費			○	○	○	○	○	史跡ツーリズムについて、関係課・機関と調整を図りながら検討を進める。	観光公社等の依頼により、ツーリズムの現地対応等行った。	高い	維持
	15	新規	文化財のユニバーサルデザイン化の推進	より多くの人が文化財を身近に感じることができるよう、来訪者が文化財を身近に感じられるような看板の整備、デザインの検討のほか、史跡や資料館などのバリアフリー化など、ユニバーサルデザイン化を推進する。	観光振興課		●	●	○	○	○	国庫補助金、市費			○	○						普通	
					文化財保存活用課		●	●	○	○	○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	網野銚子山古墳整備にあたり、ガイダンス施設への京都府まちづくり条例の順守のほか、バリアフリー、説明板等ユニバーサルデザイン化を実施する。	ガイダンス施設にユニバーサルデザインを考慮した説明パネルを設置。	高い	維持
本市の多様な自然や歴史文化を活かした「教育旅行」の誘致推進	16	新規	文化財をテーマとした教育旅行の推進	本市の自然、歴史、文化、伝統、産業、環境を教育目的に据えた「教育旅行」の誘致を推進する。	観光振興課		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	ジオパーク等を題材にした教育旅行実現に向け、観光公社でモニターツアーを実施する。	教育旅行を扱う国内旅行会社向けファムトリップの実施	普通	維持
					商工振興課		●	●	○	○	○	市費											
					生活環境課		●	●	○	○	○	市費											
					文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費								R9年度以降検討予定。			

基本方針１－４．「普及啓発の推進により、歴史文化の担い手を育てる」に基づく措置

基本方針１－４．進捗管理

課題	番号		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
					主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（2年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
若年層を中心とした市民の興味関心の向上	17	継続	「丹後学」と連携した歴史文化学習	保幼小中一貫教育で実施される「丹後学」のモデルカリキュラムに、京丹後市文化財保存活用地域計画に示した京丹後市の歴史文化の特徴を学ぶ機会を位置づけ、児童生徒の郷土愛の育成につなげる。	市内小・中（指導室）				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	丹後学カリキュラム（令和７年改訂版）完成させるとともに、市内丹後学を日常の保育・教育活動に波及させるためモデルカリキュラム部会を実施する。	丹後学カリキュラム（令和７年改訂版）完成させるとともに、市内丹後学を日常の保育・教育活動に波及させるためモデルカリキュラム部会を実施した。	高い	維持
					市内保・幼（子ども未来課）				○	○	○	市費	学校教育指導の重点		○	○	○			本市の保幼小中一貫教育の大きな特色である「丹後学」が、子どもたちの主体的な活動を通して、知識の高まりや探求心が生み出されるものとなるよう、各学園でモデルカリキュラムに沿った郷土愛の育成を行う。	保幼小中一貫教育の大きな特色である「丹後学」について、職員への知識・技術面の高まりや、広がり・深まりが生み出されるものとなるよう、各学園で創意工夫ある実践・研究を積み上げた。	普通	維持
					文化財保存活用課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	各小中学校に配布・配信した『京丹後市地域学習副読本』を効果的に活用してもらうため、各学校に対し活用方法などを提示する。	小学校出前授業の際に、副読本を活用した授業を実施。	高い	維持
	18	継続	社会科副読本による歴史文化学習	本市の歴史文化を分かりやすく解説する社会科副読本（小学生向け・中学生向け）を作成するとともに、副読本の中で京丹後市文化財保存活用地域計画に示した歴史文化の特徴を紹介する。	学校教育課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	令和７年度の市内の小学校３年生に配付する（３・４年生時に活用）社会科副読本を改訂。本市の地形地質、遺跡、ものづくり、伝統文化を掲載するとともに、資料掲載の工夫や学習のめあてや学習内の紹介のほか、データ・資料の最新化及び社会科での学習内容と関連する本市の状況をより探究的に学べる資料とする。	令和５年度の改訂内容を引き継ぎながら、関係各課の協力を得て、各ページのデータ・資料等を最新版に更新。令和7年度末に冊子化したものを各校に配付し、第３学年児童が活用。	高い	維持
					文化財保存活用課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	R6年度で完了。		高い	完了
	19	継続	文化財セミナー等の開催	文化財セミナーや文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実させる。	文化財保存活用課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	大学との共同研究（府大ACTR等）や資料館の企画展示に関連し、京丹後市文化財セミナーを開催する。	文化財セミナー　第１回（ACTR報告会）2/28開催	普通	維持
地域の歴史文化を語れる人材、読み解ける人材の育成	20	継続	「（仮称）地域史料講座」「（仮称）ガイド養成講座」の実施と人材育成	「京丹後史博士」育成講座を改編し、石造物や民俗行事などの地域史料を読み解ける人材の育成を進める。またガイド団体と連携し、ガイドなどの人材育成をはかる講座を実施する。	文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費				○	○	○	○	「京丹後の歴史文化を学ぶ」講座を開催し、ガイド養成に資する人材育成を進める。	「京丹後の歴史文化を学ぶ」講座 第１回　3/1「神明山古墳と丹後古代の里資料館」 第２回　3/14「立岩・竹野神社と鬼伝説」 R８年度に第３回以降計画	高い	維持
	21	継続	歴史文化の魅力を普及・発信する人材育成	「山陰海岸ジオパーク」のほか、本市の自然、歴史、文化、伝統、産業、環境を発信できる人材の育成を推進する。	生活環境課		●	●			○	国庫補助金、市費	京丹後市観光振興計画（予定）										
					農業振興課		●	●			○	国庫補助金、市費	京丹後市観光振興計画（予定）		○	○	○	○	○	新規就農者の確保、育成を図る。（農業経営開始資金交付金、 経営発展支援事業）	R7新規就農者採択　4名（実人数） ・農業経営開始資金交付金（3人、新谷、山野、瀬川） ・経営発展支援事業（2人、柴野、新谷）	普通	維持
					観光振興課		●	●			○	国庫補助金、市費	京丹後市観光振興計画（予定）		○	○	○	○	○	ジオパークガイドの養成やスキルアップを図る講座を実施する。		普通	維持
					文化財保存活用課		●	●			○	国庫補助金、市費	京丹後市観光振興計画（予定）					○	○	「京丹後の歴史文化を学ぶ」講座をガイド育成講座も兼ねた内容として開催し、ガイド団体に対しても別途開催する。	「京丹後の歴史文化を学ぶ」講座 第１回　3/1「神明山古墳と丹後古代の里資料館」 第２回　3/14「立岩・竹野神社と鬼伝説」 R８年度に第３回以降計画	普通	維持
	22	新規	歴史文化を活かしたコンテンツプロデュースする人材の育成	市内の様々な文化財をコンテンツとしてプロデュースできる人材を育成する。	文化財保存活用課		●	●			○	国庫補助金、市費											

基本方針１－５．「持続的に文化財を継承する体制を検討する」に基づく措置

基本方針１－５．進捗管理

	番号		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
					主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（2年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
京丹後市の庁内連携、活動団体間の連携の強化	23	継続	文化財保存活用地域計画推進協議会の設置・運営	文化財保存活用地域計画を地域総がかりにより着実に推進するため、策定協議会を推進協議会へ発展・設置し、運営する。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	市費		進捗管理と、今後の計画更新のために必要な措置	○	○	○	○	○	文化財保存活用計画推進協議会を2回開催し、進捗状況の管理を行うとともに計画の実現確認を行う。	本計画の進捗管理等を行うための推進協議会を設置し、12月・3月の2回開催した。	普通	維持
各区の歴史文化の着実な継承に向けた体制づくり	24	新規	「（仮称）京丹後市市民遺産会議」の発足	多様な市民が文化財の保存・活用に参加できるよう「（仮称）文化財保存活用市民会議」を発足させると共に、同会議の活動により、文化財保存活用地域計画の周知をはかる。	文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	「京丹後市市民遺産会議」を3回程度開催し、「京丹後市市民遺産」の認定を目指す。 年度目標：３件	▶市民遺産会議の実施　　6/27，12/23 ▶市民遺産の認定　　1件 ▶市民遺産補助金の創設　活用1件	高い	維持
	25	新規	「新たな地域コミュニティ組織」との連携	祭礼行事の継続や身近な文化財を地域活性化につなげるため、現在進められている「新たな地域コミュニティ組織」との連携を強化する。	地域コミュニティ推進課		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	令和７年度より市内全34地域において新たな地域コミュニティ組織が本稼働した。引き続き、交付金等により地域が主体的に行う地域課題解決に向けた取り組みを支援していく。	市内全34地域において新たな地域コミュニティ組織が稼働しており、交付金等により支援をおこなった。	普通	維持
					文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費											
他地域・他機関と連携した歴史文化を活かしたまちづくりの展開	26	継続	文化財に関する計画的な把握調査の体制づくり	調査が進んでいない類型の文化財の調査を大学等研究機関や市民、活動団体と協働して持続的に調査を実施できる体制をつくる。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	主に府大ACTR等の事業を通じて、大学・学校・市民と持続的に連携できる体制の構築を進める。	府大ACTR等を通じて、府大・高校・須田区との連携を推進。 須田平野古墳の発掘調査を実施するとともに、丹後緑風高校久美浜学舎と連携、発掘体験等、教育活動を行った。	高い	維持
	27	継続	海の京都ＤＭＯによる「海の京都観光圏」の取組推進	日本遺産など北部７市町連携に点在する文化財を周遊する文化観光の強化を推進する。	観光振興課		●		○	○	○	市費	京丹後市観光振興計画（予定）		○	○	○	○	○	海の京都ＤＭＯが進める文化観光の取組を支援する。	海の京都DMOが行う広域的な歴史的・文化体験ツアーの造成に向けた補助金支援を実施。	普通	維持
	28	継続	豊岡ＤＭＯその他広域観光団体との連携	関係府県市町等との連携による広域的な文化観光を推進する。	観光振興課		●		○	○	○	市費	京丹後市観光振興計画（予定）		○	○	○	○	○	北近畿広域観光連盟が進める教育旅行や団体旅行誘致に向けた取組を支援する。	北近畿広域観光連盟に対し、補助金支援を実施。市内体験施設や周遊アクセスの魅力発信に寄与した	普通	維持

令和7年度　京丹後市文化財保存活用地域計画進捗管理表

(2)防災・防犯に関する措置　実施調書

防災・防犯に関する措置																		防災・防犯に関する措置，進捗管理								
課題	番号		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等 （令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
					主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（2年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
文化財の災害予防対策・防犯対策の拡充	防-1	継続	防災・防犯設備の設置	未設置の文化財について、防災・防犯設備を設置を支援する。	文化財保存活用課		●		○	○	○	一部に府補助、市補助			○	○	○	○	○	文化財所有者との協議等、連絡を取る際に、防災・防犯設備の状況について必要な助言を行う。	文化財所有者との協議等、連絡を取る際に、防災・防犯設備の状況について必要な助言を行う。あわせて確認を行い、補助金等の助言を行った。	普通	維持
					消防本部予防課		●		○	○	○	一部に府補助、市補助			○	○	○	○	○	立入検査時（年１回）、必要な消防用設備等が未設置の場合、設置を促す。	消防用設備未設置なし。	普通	維持
	防-2	新規	既設の防災・防犯設備の定期的な点検	文化財所有者が設置した既設の防災・防犯設備について定期的な点検実施を進める。	消防本部予防課		●		○	○	○	一部に府補助、市補助			○	○	○	○	○	立入検査時（年１回）、消防用設備等が定期点検未実施の場合、点検を促す。	消防用設備の未点検未報告があり(16対象物)。点検結果報告書を提出するように指示する	普通	維持
					文化財保存活用課		●		○	○	○	一部に府補助、市補助			○	○	○	○	○	「文化財防火デー」に合わせて、文化財所有者への立入検査を実施し、既設の防災・防犯設備について点検を行う。立入検査：１月予定	「文化財防火デー」に合わせて、文化財所有者への立入検査を実施した（１月）。	普通	維持
	防-3	継続	「文化財防火運動」の実施	1月26日の「文化財防火デー」に合わせ、文化財防火運動の期間を設定し、文化財防火訓練および文化財所有者への立入検査（文化財防火査察）を実施する。また文化財所有者への周知と協力依頼、報道機関への情報提供、市広報、防災行政無線、HP等の活用による啓発を行う。	消防本部予防課		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	文化財防火運動を中心に立入検査を予定。文化財所有者へ周知と協力依頼を図る。	社寺等の立入検査実施。文化財所有者へ周知と協力依頼文を送付	普通	維持
					文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	「文化財防火デー」に合わせて、文化財防火訓練および文化財所有者への消防署とともに立入検査を実施する。あわせて、ぼsjたーを配布ふるなど周知・啓発を進める。	「文化財防火デー」に合わせて、文化財所有者への立入検査を実施した（１月）。	普通	維持
災害発生時の対応の明確化	防-4	新規	文化財避難計画の作成	文化財所有者の火災・災害時の文化財の搬出ルート、連絡体制などを示した文化財避難計画作成を進める。また、未作成の文化財について、文化財所在カードの作成を進める。	文化財保存活用課		●			○	○	市費								令和８年度以降検討予定			
					消防本部予防課		●			○	○	市費											
					総務防災課		●			○	○	市費	京丹後市地域防災計画		○								
	防-5	新規	文化財災害対応マニュアルの作成	文化財所有者の災害発生時の行動計画を示したマニュアル（危機管理マニュアル）作成を進める。	文化財保存活用課		●			○	○	市費								令和８年度以降検討予定			
					消防本部予防課		●			○	○	市費											
					総務防災課		●			○	○	市費	京丹後市地域防災計画		○								
	防-6	継続	消防本部との連携	災害発生時に迅速に対応するため、平時より、消防と文化財リストを共有するなど連携を図る。	消防本部予防課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	文化財保存活用課と文化財リストの共有を図る。	文化財保存活用課と文化財リストの共有を実施(文化財防火運動前に1回)	普通	維持
					文化財保存活用課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	本計画の防災防犯に関する取組を進めるにあたり、消防本部との協議等の場を作り情報共有に努める。	文化財防火運動前に消防本部と文化財リストの共有を実施。	普通	維持
日常的な防犯パトロールの導入	防-7	新規	文化財パトロールの実施	文化財をパトロールすることによって状況を確認し、盗難等の被害を確認した場合は速やかに関係機関に届けるなど地区単位で文化財防犯の取り組みを進める。	文化財保存活用課		●			○	○	市費			○	○	○	○	○	京都府文化財保護指導委員による市内の文化財の巡視を実施。	京都府文化財保護指導委員による市内の文化財の巡視を実施。	普通	維持
					総務防災課		●			○	○	市費											

令和7年度　京丹後市文化財保存活用地域計画進捗管理表

(3)関連文化財群ごとの措置　実施調書

1－1．「地球の営みが生んだ半島の景観と恵み」に関する措置

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体 主管課	大学	団体	市民	期間 前期（3年）	後期（2年）	次期計画	財源	根拠	備考	実施年度 R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
自然景観の適切な保全	1-1-1	保存・管理	継続	自然景観・環境の保全	山陰ジオパークのジオサイトおよびその周辺の海岸景観や環境保全を大学等研究機関の専門家、市民、団体と協力しながら継続的に進める。	**観光振興課**		●	●	○	○	○	国庫補助金			○	○	○	○	○	代表的なジオサイト「立岩」周辺の海岸清掃や「大成古墳群」周辺の草刈業務等を実施する。	大成古墳群の草刈りを2回実施した。	普通	維持
						文化財保存活用課		●	●	○	○	○	国庫補助金											
	1-1-2	保存・管理	継続	海岸漂着物対策推進事業	海岸の景観と環境保全を図るため、海岸漂着物の回収及び処理を行うとともに、3R運動などの漂着物発生抑制対策（ソフト事業）を実施し、海洋汚染および海岸漂着物対策を推進する。	**生活環境課**		●	●	○	○	○	府補助金	京丹後市環境基本計画		○	○	○	○	○	市内17海岸で海岸漂着物の回収及び処理の実施 「水をつなぐクリーン作戦」、市内中学生に向けた環境学習の実施	市内１７か所で海岸漂着物の回収及び処理を実施した。 「水をつなぐクリーン作戦」として、小中学生を対象に環境学習を実施した。	普通	維持
						観光振興課		●	●	○	○	○	府補助金	京丹後市環境基本計画		○	○	○	○	○	地元団体等に委託し、１５の砂浜海岸の海岸清掃を行う。 海ごみの現状や効率的な海岸清掃の方法を伝える「海岸清掃セミナー」を実施する。 一斉クリーン作戦やワンハンドビーチクリーンを実施し、市民等へ砂浜海岸の価値と保全の大切さを啓発する。	地元団体等に委託し、海岸清掃を行った。 6/29　京丹後市ビーチ一斉クリーン作戦を実施。293人参加。	普通	維持
						管理課		●	●	○	○	○	府補助金	京丹後市環境基本計画		○	○	○	○	○	海岸漂着物の回収及び処理			
	1-1-3	体制づくり	継続	美しいふるさとづくり推進事業	京丹後市美しいふるさとづくり条例により、美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまちづくりに努めるため、環境共生自主計画を策定した推進主体が保護する環境共生推進地域、特別保護区域の指定を行うとともに、推進主体の活動支援を行う。	**生活環境課**		●	●	○	○	○	市費	京丹後市美しいふるさとづくり条例、京丹後市環境基本計画	琴引浜の鳴り砂を守る会、はだしのコンサート実行委員会が推進主体、琴引浜が特別保護区域	○	○	○	○	○	鳴き砂で知られる「琴引浜」で、環境保全意識の普及・啓発や地域のにぎわいづくりを目的に第29回となる「はだしのコンサート」の開催経費に対して補助を行う。	第２９回となる「はだしのコンサート」の開催に対し補助金を交付した。 ビーチクリーンアップ活動を４月から５月にかけておこなった。「はだしのコンサート」は６月１日に行い、参加者約300名。	普通	維持
	1-1-4	保存・管理	継続	資料館等指定管理施設運営事業	山陰海岸ジオパークの拠点施設でもある琴引浜鳴き砂文化館を琴引浜の鳴き砂を中心に紹介する施設として運営する。長期的には、展示リニューアルを検討するとともに、wi-fi環境や会議設備の充実を図る。	**文化財保存活用課**		●		○	○	○	市費	京丹後市琴引浜鳴き砂文化館条例		○	○	○	○	○	指定管理者の更新を適切に行うことで、指定管理施設である琴引浜鳴き砂文化館の状況管理を行う。	指定管理施設である琴引浜鳴き砂文化館の状況管理を行った。	高い	維持
	1-1-5	保存・管理	継続	ジオパーク関連施設のネットワーク化	市内外の山陰海岸ジオパークに関連する博物館のネットワーク化を進めることを検討する。	**観光振興課**	●	●				○	国庫補助金			○	○	○	○	○	山陰海岸ジオパークの拠点施設である道の駅てんきてんき丹後内の情報センターの運営委託や、山陰海岸ジオパーク構成する３府県６市町との連携を図る。	山陰海岸ジオパーク推進協議会へ参画し、各市町のジオサイト及び拠点施設等の情報共有を行った。	普通	維持
						文化財保存活用課	●	●				○	国庫補助金			○	○	○	○	○	観光振興課と情報共有しつつ、博物館同士での連携を図る。	博物館の取り組みの状況について情報公開を行った。	普通	維持
	1-1-6	活用	継続	ジオツーリズムの推進	ユネスコ認定による世界基準の学術的・文化的価値「山陰海岸ジオパーク」を活かした「ジオツーリズム」の推進。	**観光振興課**	●	●		○	○	○	市費			○	○	○	○	○	観光公社やガイド団体と連携し、ジオサイト周辺を舞台とするトレイルツアーを実施する。	オサイトを活用したトレイルツアーの実施。 実施回数４回、参加人数１２１人	普通	維持
						生涯学習課	●	●		○	○	○	市費			○	○	○	○	○	市民大学や各地域公民館講座におけるジオパークを巡るウォーキング講座等の実施。	文化財ウオーキングを実施。２回開催し、のべ参加者は７３人。	普通	維持
						文化財保存活用課	●	●		○	○	○	市費											

1－2．「半島に展開する海・里・山の生業」に関する措置

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体 主管課	大学	団体	市民	期間 前期（3年）	後期（2年）	次期計画	財源	根拠	備考	実施年度 R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
各地域の特色ある町並みの調査と保存	1-2-1	活用	新規	人と山の文化史の周知・展開	山に関する民俗資料の活用、山城や登山道の更なる整備・登山客の誘致、市内各地の山を守る会等（金剛童子山を守る会等）の活動促進により、人と山の文化史の周知・発展を進める。	**文化財保存活用課**		●	●	○	○	○	市費					○			市内各地の団体の活動に協力することにより山城に関する周知広報を進める。	網野町下岡区開催の下岡城跡シンポジウムに参加、地元の山城に関する周知広報を進めた。	普通	維持
	1-2-2	体制づくり	継続	自然環境保全事業	環境学習・ブナ林観察会の開催等、京丹後市の自然に触れる機会の提供、自然環境保全の取組等に対する支援を実施する。	**生活環境課**				○	○	○	市費	京丹後市環境基本計画		○	○	○			自然豊かな本市の内山ブナ林を歩く「新緑のブナ林観察会」を実施。	自然豊かな本市の内山ブナ林を歩く「新緑のブナ林観察会」を、6月1日に開催し7人が参加。 参加者の減少などにより、R8以降は事業を廃止。	普通	廃止
	1-2-3	活用	継続	移住促進･空家改修支援事業	移住者の受入組織づくり、空家改修等に対し補助金を交付する。移住希望者の相談窓口・案内業務や情報発信等を行うとともに、移住希望者のためのお試し移住体験住宅を運営する。	**政策企画課**		●	●	○	○	○	府補助金、市費			○	○	○	○	○	京丹後市移住支援センターを運営し、移住希望者の相談窓口・案内業務や情報発信等を行うほか、お試し住宅移住体験住宅（弥栄町内1棟）の運営、移住促進・空家改修支援事業費補助金により、空家改修等を支援する。	●移住促進・空家改修支援事業補助金　26件　34,284千円（メニュー別内訳） ・地域受入体制整備促進事業　2件　570千円 ・移住促進住宅整備事業　20件　33,348千円 ・空家流動化促進事業　4件　366千円 ●お試し移住体験住宅　3組7人	普通	維持
	1-2-4	調査・研究	新規	生業に関わる文化的景観調査	農村、漁村、山村の集落や街並みと生業が一体となった文化的景観調査を進めると共に、丹後型民家などの適切な保存・活用に取り組む。	**文化財保存活用課**	●	●	●			○	国庫補助金、市費											
	1-2-5	活用	新規	歴史的建造物の活用	歴史的建造物（旧口大野村役場（国登録）、稲葉家住宅（国登録）等）の修理等を実施し、歴史文化の拠点施設として活用することを検する。	**観光振興課**		●		○	○	○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	地元のNPO団体に豪商稲葉本家の維持管理及び運営を委託し、活用を図る。	指定管理者により、適切な施設の維持管理及び企画展示の開催など利活用が図られている。	普通	維持
						文化財保存活用課		●		○	○	○	国庫補助金、市費							○	R9年度検討予定			
農業・漁業など本市の特色ある生業を担う後継者の育成	1-2-6	人づくり	新規	海・里・山に関わる生業等技術の継承	海、里、山に関わる生業の後継者を育成するため、本市の特色ある漁法、農業技術、山林技術などの技術継承のための講演会、講習会を開催する。	**農業振興課**	●	●				○	国庫補助金、市費			○						R6新規就農者採択　3名 ・農業経営開始資金交付金	普通	維持
						海業水産課	●	●	●	○	○	○	市費	海業推進事業計画	漁業者育成校「海の民学舎」負担金	○	○	○	○	○	漁業者育成校「京都府海の民学舎」運営に係る負担金を支出。新入舎生に本市の漁業について講義し本市での就業を促している。	海の民学舎の運営経費として、430千円を支出し、新たな漁業者の育成や若手漁業者等の経営力向上等を支援した。 ○R７年度入舎生：１名	普通	維持
						文化財保存活用課	●	●				○	国庫補助金、市費											
	1-2-7	人づくり	継続	「里山文化案内人」の養成	地域に根付いた人々の知恵について解説・案内する「里山文化案内人」の養成を推進する。	**観光振興課**		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	観光公社、商工振興課と連携し、万博に向けたヘルスツーリズムやオープンファクトリー事業のガイド養成を行う。		普通	維持

1－3．「災害の歴史と記憶を伝える」に関する措置

1－3．進捗管理

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
震災関連遺構の適切な保存・活用	1-3-1	保存管理活用	新規	丹後震災100周年の取り組み	令和９年３月に丹後震災100周年を迎えるにあたって、郷村断層の保存活用計画の策定、生野内地区郷村断層保存施設の覆屋の改修、小池・樋口地区の断層の保存・活用を進め、郷村断層保存施設を山陰海岸ジオパークや防災に関する拠点施設として磨き上げをかけるとともに、防災意識の啓発をさらに進める。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費				○			○	令和9・10年度での郷村断層保存活用計画の策定を目指し、文化庁・京都府等と調整を進める。	郷村断層保存活用計画の策定を目指し、文化庁・京都府等と調整を進めた。	普通	維持
						観光振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	ジオサイトの一つとして、市民等に向けた啓発を継続する。 丹後震災を語り継ぐ人材を養成するため、郷村断層小池地区にてガイド向けの研修会を実施する。	ジオパークガイド養成講座の実施。 →全４回、延べ３２人参加	普通	維持
						総務防災課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費	京丹後市地域防災計画					○					
	1-3-2	保存管理活用	新規	丹後震災記念館の保存・活用	丹後震災記念館および伊藤快彦による震災画の保存・活用方法を検討する。内部利用ができるまでの間は、外観を利用したユニークベニューの取り組み等を検討し、活用をはかる。	文化財保存活用課		●	●	○	○	○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	伊藤快彦による震災画の修繕（3年目）を実施し、今後は郷土資料館での活用を図る。丹後震災記念館の再度の耐震診断と工法調査を実施するとともに活用方法についてサウンディング調査を実施し利活用検討委員会においてこれらを反映した基本計画を策定する。 検討委員会：３回開催予定	▶震災画 震災画の修繕（３年目）を実施し令和７年度末返却。 ▶丹後震災記念館サウンディング調査 丹後震災記念館の活用方法等についてサウンディング調査を行い、活用と運営方法について提案を受けた。 ▶再度の耐震診断と工法調査を実施し、耐震化に係る概算を算出した。 ▶丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会 丹後震災記念館の耐震化及び利活用について検討する委員会を５回開催し基本計画を取りまとめた。	高い	維持
災害の記憶を活用した防災教育の推進	1-3-3	人づくり	新規	防災教育の推進	災害の記憶を示す写真や資料、復興建築や郷村断層を活用しながら、自然災害の脅威から身を守るための防災教育を避難訓練等とあわせ市内の小中学校で推進する。	学校教育課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	小学６年生対象の丹後学として「大地の学習」で、ハンドブックを活用した震災についての学習や郷村断層の見学を行う予定のほか、各小中学校においても避難訓練の際に地震・津波・火災等の学習を行う予定。	本市の全小学校の６年生が「大地の学習」を体験していることが震災の理解につながっている。 資料を活用した学習や実際の訓練により、児童生徒の防災に関する意識の高まりが見られた。	普通	維持
						文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費					○	○	○	震災記念展を実施し防災について考える契機とする。また小中学校や峰山以外の地域公民館でも展示を行う。	震災記念展を小中学校巡回。弥栄地域公民館で一般公開。	高い	拡充
	1-3-4	調査・研究	新規	離村等の所在調査及び記録の作成	これまで十分に把握できていない三八豪雪の際に離村した集落の所在について現地調査や聞き取り調査により離村の記録作成を行う。	文化財保存活用課	●	●				○	国庫補助金、外部資金（大学研究費）、市費											
2	2	調査研究	新規	戦争記憶の調査	過去の調査の現状確認を行うとともに、聞き取り調査等を実施する。大学や市民等との協働により、録音、テープ起こし等記録保存を実施する。	文化財保存活用課	●		●			○	市単費、大学											

2-1．「「丹後王国」の成立から興隆」に関する措置

2－1．進捗管理

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
市域に広がる遺跡の計画的な調査・研究	2-1-1	調査・研究	新規	市内遺跡の調査計画の作成	今後の国・府・市による史跡指定や遺跡整備を見据えた遺跡調査に関する長期的な調査計画の作成を検討する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費											
	2-1-2	調査・研究	継続	遺跡発掘調査等事業	埋蔵文化財の保護のため、発掘調査等を実施し、開発事業との円滑な調整を図る。	文化財保存活用課				○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費			○	○	○	○	○	開発事業について、事業者との連絡調整を十分図りながら必要な場合には発掘調査を実施する。	開発事業について、事業者との連絡調整を図りながら、届出処理を行った。	普通	維持
遺跡を身近に感じることができるような整備・活用	2-1-3	保存・管理・活用	継続	網野銚子山古墳の整備、管理、活用	令和6年度完成に向け、地域づくり、観光誘客、教育振興などに有効活用するために整備を推進する。また整備完了後は、地域づくり・観光・教育への活用を図る。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金	京丹後市史跡整備検討委員会条例		○	○	○	○	○	整備工事を完成させる。また、史跡整備完了記念式典と杵にベントを実施する。記念イベントについては今後の市民党の活用を促すイベントを兼ねる。また活用と保存を両立させるルールづくり取り組む。	▶整備工事 駐車場、ガイダンス施設の建築工事を完了させる。 ▶オープニングイベントの実施 4/26実施、来場者約1000人 ▶古墳フェス「はにコット」出展 ▶丹後三大古墳めぐりスタンプラリーに協力	高い	拡充
						観光振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金	京丹後市史跡整備検討委員会条例		○	○	○	○	○	網野銚子山古墳の整備について、観光誘客の観点で検討委員会に参加し、整備後の観光分野での活用を図る。	検討委員会に参加し、整備後の観光活用について検討した。	普通	維持
	2-1-4	保存・管理・活用	新規	国指定史跡等に関する保存活用計画の作成	地域づくり、観光誘客、教育振興などに有効に活用するため、国指定史跡の保存活用計画を策定し、整備を推進する。	文化財保存活用課				○	○	○	国庫補助金											
	2-1-5	保存・管理	新規	赤坂今井墳墓の整備	地域づくり、観光誘客、教育振興などに有効に活用するための整備を推進する	文化財保存活用課						○	国庫補助金		地区要望あり、保存活用計画→整備										
	2-1-6	保存・管理	新規	函石浜遺跡の整備	函石浜遺跡の整備を実施し、地域づくり、観光誘客、教育振興などに有効に活用する。	文化財保存活用課						○	国庫補助金		地区要望あり、内容確認調査→保存活用計画→整備										
	2-1-5	保存・管理	継続	古代の里資料館管理運営事業	考古・歴史資料等を収蔵・調査・公開する丹後古代の里資料館を文化財保護・啓発の拠点施設として運営する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費	京丹後市立資料館条例		○	○	○	○	○	企画展示の開催（３回）や、小中学校の見学・夏休み体験イベントを実施する。	▶丹後古代の里資料館 企画展示２回（夏・冬）、資料館まつり１回、市内小中学生夏休み入館無料イベント	高い	維持
	2-1-6	活用	新規	史跡等の官民学連携活用	市、大学、地元区、その他関係機関の連携による、史跡等地域の歴史文化資産の地域資源化及びその成果の活用を通した魅力発信を推進する。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	外部資金（大学研究費）			○	○	○	○	○	京都府立大学ACTRが令和7年度も採択されたことを受け、特に湯舟坂2号墳プロジェクトにおいて、官民学の連携を図りつつ、事業を実施する。	府大ACTR等を通じて、府大・丹後緑風高校・須田区との連携を推進。須田平野古墳の発掘調査を実施するとともに、丹後緑風高校久美浜学舎と連携、発掘体験等、教育活動を行った。	普通	維持
	2-1-7	保存・管理・活用	継続	市所有重要文化財の収蔵・公開	国指定重要文化財「丹後湯舟坂二号墳出土品」の保存修理と丹後古代の里資料館での収蔵・公開を図る。	文化財保存活用課		●		○	○	○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	「丹後湯舟坂二号墳出土品」の保存修理を実施（４年目）。修理後に丹後古代の里資料館での収蔵・公開を目指し、文化庁等関係機関と連絡調整を進める。	「丹後湯舟坂二号墳出土品」の保存修理を完了。文化庁・京都府・京都府立丹後郷土資料館と連絡調整を進め、修理後に丹後古代の里資料館での収蔵・公開ができるようにした。	高い	維持
	2-1-8	活用	継続	文化財関連マスコットキャラクターの活用	既存の「コッペちゃん」や丹後古代の里資料館で使用している「はにえもん」などのキャラクターの活用を図る。	文化財保存活用課				○	○	○	市費			○	○	○	○	○	資料館イベントなどでキャラクター「はにえもん」の活用を図る。			
	2-1-9	活用	継続	資料館、史跡等の多言語化への対応	文化財の多言語に対応したパンフレットの作成及びデジタル化を検討する。	文化財保存活用課						○	国庫補助金、市費			○	○	○	○	○	資料館の多言語化について引き続き検討を行う。	「京丹後歴史文化めぐりマップ」は多言語に対応したものとして作成した。	普通	維持
	2-1-10	活用	継続	資料館の地域連携	古代の里まつり、郷土資料館まつりの地域行事との連携により、既存の資料館まつりの活性化や文化財に関する地域力の創出を図る。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	古代の里まつりと資料館まつりを実施する。	▶郷土資料館 資料館まつり 手機体験、めんこ工作、缶バッチ作成、昔の道具体験 ▶丹後古代の里資料館 資料館まつり 貝ストラップ作成、プラバンキーホルダー作成、火起こし体験、土器・石器パズル	高い	維持

	2-1-11	活用	新規	古代の里園地の環境再整備、利用促進	古代の里園地を市内外からの来館者の体験スペースや学校教育（総合学習等）の場等で利用できる、人を呼び込める場所として環境の再整備、利用の促進を図ることを検討する。	**文化財保存活用課**					○	市費													
	2-1-12	活用	新規	史跡ツーリズムの推進	関連文化財群「丹後王国の成立から興隆」のストーリーを体感できるよう、神明山古墳、銚子山古墳、赤坂今井墳墓などの文化財をガイドと共に巡る「史跡ツーリズム」を推進する。	**観光振興課**		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	銚子山古墳へのアクセス環境の整備に伴い、観光公社と連携し、史跡ツーリズムの造成・発信を行う。	日本海３大古墳を巡る「史跡ツーリズム」の商品販売を開始。また、観光公社にて旅行会社への売り込みを行う。	普通	拡充
						文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費			○	○	○	○	○	網野銚子山古墳のオープンにあわせ、観光公社等と連携し古墳ツアーを開催する。	網野銚子山古墳を中心とした古墳ツアーの作成を京丹後市観光公社に委託し、4/27にツアー実施。	高い	維持

2-2. 「半島に語り継がれた伝説・伝承」に関する措置

２－２．進捗管理

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
市内の伝説・伝承の分かりやすい発信	2-2-1	活用	新規	「（仮称）京丹後の伝説・伝承」冊子の作成	市内の伝説・伝承を理解しやすいように、（仮称）「京丹後の伝説・伝承」として冊子にまとめ、同時に観光パンフレットとしても活用する。	**文化財保存活用課**	●	●				○	市費											
						観光振興課	●	●				○	市費			○	○	○	○	○	文化財保存活用課が作成する「京丹後歴史文化めぐりマップ」を観光案内時やPR時に活用する。	観光客への案内や観光パンフレットの作成に活用。	普通	維持
	2-2-2	活用	新規	伝説・伝承ツーリズムの推進	各地域で行われる祭や、京丹後七姫伝説、浦島太郎伝説、鬼退治伝説など、伝統・伝説・伝承を活用した「伝統・伝承ツーリズム」の推進。	**観光振興課**		●	●	○	○	○	市費				○	○	○	○	文化財保存活用課が作成する「京丹後歴史文化めぐりマップ」を観光案内時やPR時に活用する。	京丹後宿おかみさんの会のお宿で、チラシやポスター等を配架。	普通	維持
						文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費				○	○	○	○	「京丹後歴史文化めぐりマップ」を活用し、伝説・伝承に関する「おすすめコース」を作成し、公開する。	京丹後歴史文化めぐりマップを更新した。	普通	維持

2-3. 「「一色領国」から「海の代官所」へ」に関する措置

２－３．進捗管理

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
中近世の統治の歴史を身近に感じられる環境づくり	2-3-1	保存・管理	継続	久美浜の歴史的街並みの整備・保全	マップの作成、まち歩き観光の推進、移住の推進などにより、稲葉本家を中心とした久美浜一区の歴史的街並みの保全と活用を市民団体などと協働して進める。	**都市計画・建築住宅課**	●	●		○	○	○	市費	京丹後市住民協定景観形成条例		○	○	○	○	○	京丹後市住民協定景観形成条例第６条の規定による開発行為等の届出について、久美浜一区まちづくり協定の内容に適合しないと認めるときは、必要な指導・助言を行う。	市民・事業者等からの協定区域内における建築等事業の相談等に対し、久美浜一区まちづくり協定及び、京丹後市住民協定景観形成条例の周知を行った。	普通	維持
						観光振興課	●	●		○	○	○	市費	京丹後市住民協定景観形成条例		○	○	○	○	○	久美浜一区の歴史的町並みの保全と活用を行う市民団体等の活動を支援する	京丹後市観光公社が「周辺散策イラストマップ」を作成。	普通	維持
						文化財保存活用課	●	●		○	○	○	市費	京丹後市住民協定景観形成条例		○	○	○	○	○	久美浜一区の歴史的町並みの保全と活用を行う市民団体等の活動を支援する。	稲葉本家（わくわくする久美浜をつくる会）と協力し、稲葉本家の展示を継続。	普通	維持
	2-3-2	活用	新規	お宝再発見（地域学）による観光等への応用	アプリまたはHP等を利用し、古地図や現在に残る歴史文化を参照し、変わりゆく過去に思いを馳せながらまち歩きを行い、地域の魅力を発見する契機とする。市民が地域の歴史文化に親しむきっかけづくりになるとともに、まちの記憶のアーカイブ化としても機能するものとする。地域学習や観光にも応用可能なものとする。	**文化財保存活用課**	●		●		○	○	国庫補助金、市費				○	○	○	○	「京丹後歴史文化めぐりマップ」を活用し、「おすすめコース」にまち歩きにも活用できるコースを追加する。	おすすめコースにまち歩きコースを追加した。	普通	維持

3-1. 「「気張る」丹後人の気質とものづくりのふるさと」に関する措置

３－１．進捗管理

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
ものづくり文化のさらなる発信	3-1-1	活用	新規	ものづくり体験ツーリズムの推進	米作り発祥の「月の輪田」、日本遺産の「丹後ちりめん回廊」、古代から栄えた製鉄技術など、歴史的・文化的・伝統的な価値をもつ"ものづくり"に触れる「ものづくり体験ツーリズム」の推進。	**商工振興課**	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費			○	○	○			地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする「地域一体型オープンファクトリー」を実施。	地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする「地域一体型オープンファクトリー」を実施。 ◆通年型オープンファクトリー 万博開催と同日の4月13日からスタートし、ものづくりに興味のある方やクリエイター、デザイナー、商工団体等に対し市内オープンファクトリー実施事業者の情報発信や受入調整、リクエストに応じてツアーを実施 ◆丹後オープンファクトリー2025「NeoTAN」 10月3日～5日に開催。 28のものづくり現場を一斉に開き、職人や技術者との直接対話や体験を通じて、地域の"ものづくり力"を間近に感じられるイベントを京丹後市と与謝野町で開催。	高い	拡充
						観光振興課	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費			○	○	○	○	○	観光公社又は海の京都ＤＭＯが進める「ものづくり体験ツーリズム」の造成支援を行う。	海の京都DMOが行う広域的な歴史的・文化体験ツアーの造成に向けた補助金支援を実施。	高い	維持

3-2. 「「丹後ちりめん」をめぐる人と技」に関する措置

３－２．進捗管理

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考	実施年度					実施内容等（令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画				R5	R6	R7	R8	R9				
産業の観光活用	3-1-1	活用	新規	ものづくり体験ツーリズムの推進	米作り発祥の「月の輪田」、日本遺産の「丹後ちりめん回廊」、古代から栄えた製鉄技術など、歴史的・文化的・伝統的な価値をもつ"ものづくり"に触れる「ものづくり体験ツーリズム」の推進。	**商工振興課**	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費			○	○	○			地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする「地域一体型オープンファクトリー」を実施。	地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする「地域一体型オープンファクトリー」を実施。 ◆通年型オープンファクトリー 万博開催と同日の4月13日からスタートし、ものづくりに興味のある方やクリエイター、デザイナー、商工団体等に対し市内オープンファクトリー実施事業者の情報発信や受入調整、リクエストに応じてツアーを実施 ◆丹後オープンファクトリー2025「NeoTAN」 10月3日～5日に開催。 28のものづくり現場を一斉に開き、職人や技術者との直接対話や体験を通じて、地域の"ものづくり力"を間近に感じられるイベントを京丹後市と与謝野町で開催。	高い	拡充
						観光振興課	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費			○	○	0	○	○	観光公社又は海の京都ＤＭＯが進める「ものづくり体験ツーリズム」の造成支援を行う。	海の京都DMOが行う広域的な歴史的・文化体験ツアーの造成に向けた補助金支援を実施。	普通	維持
丹後ちりめんに関する資料の整理と活用	3-2-1	保存・管理	継続	郷土資料館管理運営事業	織物関係等の民俗資料等を収蔵・調査・公開する郷土資料館を文化財保護・啓発の拠点施設として運営する。	**文化財保存活用課**				○	○	○	市費	京丹後市立資料館条例		○	○	○	○	○	企画展示の開催（２回）や、小中学校の見学・体験対応等を実施する。また、夏休みイベントを実施する。	企画展示３回（夏・秋・冬）、資料館まつり１回（９０人）。資料館まつりでは、手機体験を実施。	普通	維持

4-1.　「花開いた仏教文化」に関する措置

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画			
本市の宗教文化のさらなる解明に向けた調査・研究	4-1-1	調査・研究	新規	山林寺院所在調査及び記録の作成	これまで十分に把握できていない山林寺院等の所在調査を行う。また生活文化・伝承等寺院・墓地等について現地調査や聞き取り調査により、記録の作成を行う。	**文化財保存活用課**	●	●		○	○		外部資金（大学研究費）、国庫補助金、市費		
	4-1-2	調査・研究	新規	石造物の悉皆調査	市民より有志を募り、市内の石造物の悉皆調査を実施する。	**文化財保存活用課**			●			○	国庫補助金、市費		
建造物や美術工芸品等の適切な維持管理	4-1-3	保存・管理	継続	美術工芸品等の保存・修理への支援	彫刻、絵画などの美術工芸品の劣化を抑え、次代に継承するために必要な保存・修理方策の整備を図るため、文化財所有者への相談窓口や保存・修理のための補助システムの構築を検討する。	**文化財保存活用課**		●	●	○	○	○	国庫補助金、 府補助金、 市費		

４－１．進捗管理

実施年度					実施内容等 （令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
R5	R6	R7	R8	R9				
○	○	○			山林寺院等の調査を、大学研究費（大学教員の科学研究費等）を利用し、大学その他関連機関と連携しながら進める。	京都府立大学・丹後ひくやま会と連携し、久美浜町山内や佐野甲等の山寺調査を実施した。	普通	維持
			○	○	R8年度以降検討予定			

4-2.　「暮らしを彩る祭礼・芸能」に関する措置

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画			
祭礼・民俗芸能の記録保存の推進	4-2-1	調査・研究	継続	祭礼・民俗芸能の把握調査及び映像記録の作成	地区アンケートの結果や過去の調査資料から明らかになった市内の民俗芸能の現状把握と映像・写真による記録保存を推進する。また休止した民俗芸能等は、道具や衣装類や聞き取り調査を行い、映像記録等の収集につとめる。	**文化財保存活用課**		●		○	○	○	国庫補助金、市費		
						生涯学習課		●		○	○	○	国庫補助金、市費		
	4-2-2	調査・研究	新規	市内の民俗行事調査	市内各区の生活文化や年中行事について、文化財保護審議会委員や市民の協力を得ながら、現状把握等の調査を実施する。	**文化財保存活用課**		●	●			○	国庫補助金、市費		

４－２．進捗管理

実施年度					実施内容等 （令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
R5	R6	R7	R8	R9				
○	○	○	○	○	「文化のまちづくり実行委員会」が実施した地域の祭や伝統芸能等の記録・保存事業について、実施後の具体的な活用方法を検討する	「文化のまちづくり推進会議」により、地域の祭や伝統芸能の公開等について活用方法を検討した。	普通	維持

4-3.　「半島と共に生きる食の知恵」に関する措置

課題	番号	分野		事業名	事業内容	主体				期間			財源	根拠	備考
						主管課	大学	団体	市民	前期（３年）	後期（２年）	次期計画			
各地域の特色ある食文化の調査	4-3-1	調査・研究	新規	食文化に関する調査	各地区で継承されている歳時食や行事食、郷土料理など、豊かな食文化に関する調査を進める。	**文化財保存活用課**			●			○	国庫補助金、市費		
	4-3-2	活用	活用	フードツーリズムの推進	「京丹後百寿レシピ体感プログラム」として認証取得したヘルスツーリズムをはじめ、健康長寿のまちの礎となった郷土食や伝統的な食文化を活かした「フードツーリズム」の推進。	**健康推進課**		●	●	○	○	○	市費		
						観光振興課		●	●	○	○	○	市費		
若年層への食育の推進	4-3-3	人づくり	継続	食文化伝承推進事業	地域の伝統的な食文化への理解を深め、本市に伝わる食文化を伝承していくため、小学校、中学校の児童・生徒を対象に郷土食の調理指導等を実施する。	**健康推進課**		●	●	○	○	○	消費・安全対策交付金	健康増進計画、京丹後市食育プログラム	
						学校教育課		●	●	○	○	○	消費・安全対策交付金	健康増進計画、京丹後市食育プログラム	
	4-3-4	人づくり	継続	食育伝達講習会	市内各地域で市民を対象に、食生活改善推進員が郷土食等の伝達講習会を行い普及する。	**健康推進課**		●	●	○	○	○	消費・安全対策交付金	健康増進計画、京丹後市食育プログラム	

４－３．進捗管理

実施年度					実施内容等 （令和７年度分）	実施成果	評価	今後の方向性
R5	R6	R7	R8	R9				
○	○	○	○	○	観光公社と連携し、京丹後宿おかみさんの会による「まごわやさしいこ」食事を普及する。美食都市のまちづくりに向け庁内勉強会を実施する。	観光公社と連携し、「まごわやさしいこ」ランチョンマットの増刷及び、“まごわやさしいこ”をテーマに、主に旬の地元食材をバランス良く取り入れた、体に優しい食事を宿泊客に提供。	普通	維持
○	○	○	○	○	食文化伝承推進事業（25回開催予定） 　市内の小中学校に食生活改善推進員が出向き郷土食の調理指導を実施する。	食文化伝承推進事業 　食生活改善推進員が講師となってこども達へ地域の食文化を伝承することができた。 22回、514人参加（児童・生徒）	普通	維持
○	○	○	○	○	伝達講習会（15回開催予定） 　各地域で市民を対象に食生活改善推進員が郷土食等の調理指導を実施する。	伝達講習会 　食生活改善推進員が市の研修会で学んだメニューや郷土食を市民へ伝達することができた。	普通	維持